

<b>授業科目</b> 社会福祉学特論Ⅱ (精神保健福祉特論・福祉心理学特論)	<b>科目概要・形式</b> 4単位60時間(30コマ) 講義科目	<b>配当年次</b> 博士前期2年次 前期開講	<b>オンライン参加</b> 可・不可
<b>科目責任者</b>	坂下 智恵		
<b>担当者</b>	坂下 智恵、大山 博史		
<b>1. 科目のねらい・目標</b> まず、精神保健福祉特論では、精神保健福祉に関する諸問題のリスク、心理的機序、介入等について、吟味するとともにその課題を明らかにし、研究方法を検討する。エビデンス・ベースド・プラクティスや質的解釈の手法を用いて、関連文献や研究計画に対する考察を行う。 福祉心理学特論では、自殺予防対策のあり方について精神保健福祉学の立場から議論を深める。自殺に至る心理的過程を理解し、それらの段階に応じてどのような支援策が検討できるか、これまでのエビデンスを踏まえながら考察していく。			
<b>2. 授業計画・内容</b> 以下のようなテーマについての講義および聴講生のディスカッションによって進める。 第1～3回 精神保健福祉の課題について 第4～6回 精神障害者の特性について 第7～9回 精神障害者を取り巻く環境について 第10～12回 根拠に基づく臨床(1) 第13～15回 根拠に基づく臨床(2) 第16～18回 精神障害者リハビリテーションの課題と展望 第19回 福祉心理学序論：「自殺予防」をどう捉え、そこにどう対処するか 第20～21回 自殺リスクと自殺に至る心理的過程の理解 第22～24回 自殺予防の現状と精神保健福祉学の立場から見た自殺予防対策 第25～27回 地域における自殺予防活動の効果 第28～30回 予防的介入モデルから合理的な自殺予防対策を検討する なお、上記計画内容は受講生のニーズに応じて、適宜、変更することがある。			
<b>3. 教科書、参考書</b>			
参考書 訳者 木原雅子他：「医学的研究のデザイン 第4版」、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2014年、ISBN 978-4-89592-783-3			
<b>4. 成績評価方法</b> 授業への参加度30%、レポート課題70%により評価する。			
<b>5. 受講要件</b> 対面での授業を原則とする。 この講義では、受講生に関連する国際的な文献の検索と批判的吟味を行うため、基本的な英文読解能力と統計学的知識が求められる。 保健・医療・福祉領域における臨床経験がある者が望ましい。			
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b> 受講日時等、相談を受けます。			
<b>7. その他</b>			